

関西鉄筋組合も参画

阪神高速会社の現場見学会

土木の日の協賛行事 結束体験や重さ当てクイズのブースを出展

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は11月18日（日）、阪神高速道路会社が「土木の日」の協賛行事として開催した一般市民向けの現場見学会に参画し、結束体験コーナーや重さ当てクイズのブースを出展しました。

会場となった堺市の阪神高速大和川線の建設現場には応募のあった650人から選ばれた周辺住民や親子連れなど約400人が参加し、40人ずつの10班に分かれて普段は入ることができない地下トンネルを見学したほか、開削トンネル模型実演や土留壁の実験、コンクリート練り、アーチ橋の製作などのイベントを通じて土木事業の重要性や魅力を実感しました。

このうち、関西鉄筋組合ではゼネコンなどのブースと並んで結束体験コーナーと鉄筋の重さ当てクイズのブースを出展。小さな子供たちからお年寄りまで多くの人たちが足を止め、プロの職人の手ほどきを受けながら慣れない手つきでハッカーを使って結束作業を楽しんでいました。親子連れの中にはお父さんと子供が結束作業に挑戦し、それをお母さんがカメラに収める光景も見られました。重さ当てクイズは50センチの長さに切った数種類の径の異なる鉄筋の重さを当てるもので、実際に鉄筋を手にとって真剣に考えていました。組合からは岩田理事長、田浦真一副理事長、田村晃一理事と職人2人（田浦、辻本建設）が参加し、見学者の対応にあたりました。

阪神高速大和川線は、堺市堺区築港八幡町～松原市三宅中の延長約9.7kmを事業区間として、東西方向の交通緩和と地域活性化を目的に計画された路線です。今回見学したシールドトンネルは区間最大となる工事で、鹿島・飛島JVが施工を担当。概要は外径12.3m、延長2020m（東行2007m、西行2016m）、掘削土量49万6000立方m、工期は70ヶ月となっています。

